



立ちはだかる「冬の時代」

二の足踏むリピーター
博多湾の「オキユート」がまぶしくなった

理事長兼館長 原 寛

2009(平成22)年度の入館者数がまとも、ほんのわずかですが前年度を上回りました。89人増えて2,242人。開館日数が違いますから大喜びする事柄ではないにしろまずはほっとしています。

と申しますのも博物館を巡る環境は激変の只中にあるからです。公益法人

制度の改革という大ナタが振われ、猶予期限の5年内に将来の進路を選択しなくてはなりません。残された期間はあと3年になりました。それに加えて近年よく言われるのが文化施設の「冬の時代」。多くの博物館、美術館、動物園、水族館、文学館が入館者減にあえいでいます。福岡市近辺でも阿修羅展で大成功を取めた大宰府の九州国立博物館のような例はほんのひとにぎり。税金で運営される公立施設はともかく当館のような民間の中小施設は、若者の文化施設離れもあって、大半が赤字経営に苦しんでいるのが実態です。

ご多分に漏れず当館も合理化せねば生き延びていけません。開館日数を抑



原 寛

え人件費、光熱費などを最低限に切り詰めつつ、新たな企画展を年間一つぐらいは出来ないだろ

うかと、汗を流しているところです。PRについてもグループの誘致を重点にできないかと考えています。公民館や老人クラブの年間行事に組み込んでもらえないか、歩こう会に島内のハイキングコースをご紹介したいだけで博物館に寄っていただけないか、あれこれ模索しています。

いろいろなアイデアを検討する過程で突き当るのが離島であるが故のハンディキャップ。姪浜渡船場の駐車場難、けっして安くない渡船料金、炎天下の乗船行列。リピーターが二の足を踏むのはこのあたりが原因のひとつではないでしょうか。

この誌面の7ページでニューヨークのフェリーを話題にしました。島のスケールは及びもつきませんが乗船料金は無料、24時間営業です。国情も背景も違いますから単純な比較は誤解を招きますが公共交通機関への認識の違いを感じます。

先日、対岸の姪浜に長く住むご婦人が館に来てこう話されました。「博多湾の埋立てでオキユートがまぶしくなった」。

湾を見下す「海に見える丘博物館」の役割に終わりはないさそうです。

(水彩画「博物館の四季」能古博物館サポーターズクラブの伊藤公夫さん描く)

大隈言道と亀井南冥ゆかりの人々をめぐる

九州情報大学非常勤講師

進藤康子

むら千鳥 つばさ細めて 向かへども そなたへ
やらぬ のこのうら風

海士能栖 能己能有楽己所 寂寥敬麗 那可務
留方波 波者可里之弟 (あまのすむ のこのうらこそ
びしけれ ながむるかたは なみばかりして)



言道肖像画(個人蔵)

これは、江戸

後期の博多の歌人、大隈言道の歌である。言道は、博多湾に浮かぶ能古島(当時は残島とも)を和歌に詠み込み、一首目は、言道の歌集『草径集』(九五番歌)(注二)にみえる。また、二首目は、万葉仮名を用いて二字二音趣き深く、目での鑑賞にも堪え得る用字法で「のこのうら」を詠んだもので、『差都貴帖』(十三番歌)にみることが出来る。

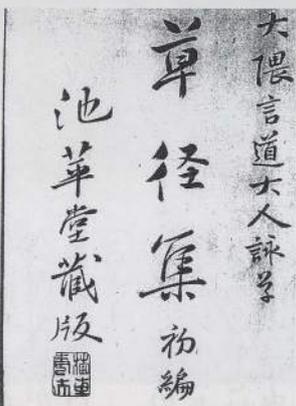
(注二)和歌文学大系74『布留散東・はちすの露・草径集・志濃夫廻舎歌集』(明治書院)進藤康子「解説」参照。

大隈言道の「能古の浦風」の歌にいつしか引き寄せられて、亀陽文庫能古博物館にふらりと立ち寄ったある日、この亀陽文庫の所蔵の多さと質の高さにまぎれさせられた。例えば、▽南冥詩書、昭陽旭莊「原采蘋壯行贈詩」▽秋月藩主主催、亀井昭陽、原古処企画「西都雅集展観書画題名目録」(文化三年)▽亀井少琴、僧仙崖「竹画」(仙崖賛題)▽頼山陽「七言絶句」(文政元年)▽草場佩川「竹図」▽石丸春牛「花鳥図」▽二川玉篠画、二川相近題賛「梅花」など。

一点一点が物語る南冥ゆかりの人々。実は、これらの人々から直接的に、あるいは間接的に、言道は多くの学恩を受けているのである。

特に、南冥門下の二川相近は、大隈言道の若き日の和歌と書の師であったことはよく知られている。書も二川

流を受けて上達し、相近編『徒然集』(天保六年)の浄書は言道が担当した。そして言道は、大坂滞在中には「浪速三筆」と呼ばれるまでになった。その書風は和歌とともに、言道門下女流



大隈言道『草径集』

歌人、野村望東尼へと受け継がれていく。

また、天保十年、言道四十二歳の時、日田の広瀬淡窓に教えを乞う為に、言道は咸宜園に入門するが、この淡窓も亀井門下である。知遇を得て、来賓あつかいとなった言道は、歌人としてすでに一家をなしており、漢詩の造詣を深め、模索中の歌論詩論を根本から再確認するための入門であったことだろう。

更に、言道と南冥の縁は続く。言道は博多からたびたび飯塚に向き、多くの門人を飯塚に持ったことはよく知られているが、その飯塚での、言道歌壇における和歌添削指導の教授所となった納祖神社近くの「宝月楼」の書院名「沓水書屋」は、南冥の命名で、書院にかけられた「沓水書屋」の額も南冥自筆であったという。

飯塚の小林重治(注二)に贈った『春野集』の跋には、「嘉永(い)のとし夏はじめ沓水書屋にてしるしぬ / 大隈言道 / 小林重治ぬし」とある。古川直道の別荘で、言道の飯塚での定宿だったこの宝月楼を含めて飯塚は、古くは宗祇や貝原益軒、南冥なども訪れた文人墨客しきりの宿場町で、宝月楼や納祖神社には、川からの水を直接巡らせ舟が横付けできた。納祖神社の神官青柳直雄や薩摩屋の宮崎重道、重治、直道らが言道とともに一緒に舟に乗りこみ、歌会の風雅、まともを楽しんで姿が偲ばれる。また、青柳直雄は、同じく亀井門下の芦屋の神官伊藤常足と本の貸し借りをする仲であった。

(注二)拙稿「翻刻大隈言道自筆資料『自詠集中抄』」言道門下小林重治歌集(九州情報大学論集)参照

さて、先に挙げた南冥、昭陽、旭莊「原采蘋壯行贈詩」(能古博物館蔵)にも登場する広瀬旭莊も言道とゆかりが深い。旭莊が杖をついた奈良県月ヶ瀬村の観梅の宿「騎鶴楼」の宿帖に旭莊は書画を認めただが、まるでしめし合せた様に、同じ宿帖の、くしくも旭莊の次の丁に、言道は、月ヶ瀬探訪の証しとして和歌を揮毫しているのである。

この旅は、言道が「文政二年乙卯のとし、伊勢韓聯玉といふ人、筆をとりはじめし、月瀬梅花帖、二川、月形などの詩もあり」と『今橋集』で記しているように、先に示した言道若き日の師、二川相近も詩を寄せた『月瀬梅花帖』に影響を受け、安政年間に月瀬観梅の旅に出た時のもので、これを、言道は『月瀬紀行』(大東急記念文庫蔵)に記した。

この旅の概要は、拙稿「大東急記念文庫蔵『月瀬紀行』についての一考察」大隈言道「今橋集」との関連において(九大『語文研究』第九十三号)、『幕末期月瀬紀行の世界』騎鶴楼画帖・梅武書画帖とその周辺から(『江戸文学』28号)へりかん社 参照)で先に報告した。

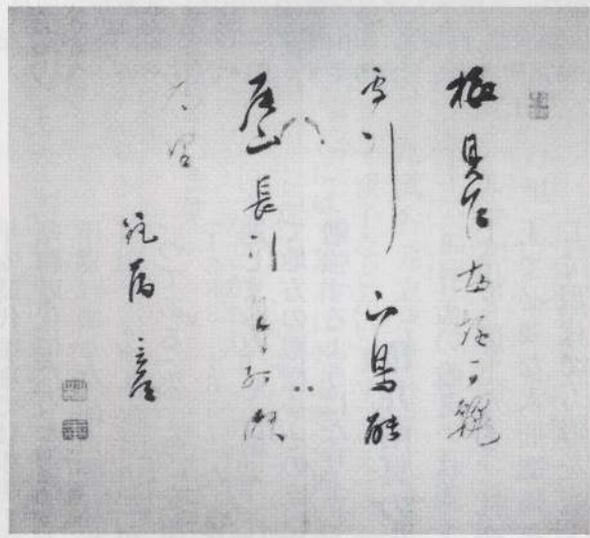
さらにこの『月瀬紀行』と『今橋集』の調査を進めるうち言道が宿泊したカヂヤこと「騎鶴楼」やその周辺の宿に、頼山陽、斎藤拙堂、福田半香、松川半山、梁川星巖、菅茶山、月形質、伴林光平、田能村直入、草場船山(能古博物館蔵「竹図」などを描いた草場佩川の子。肥前多久)などのおびただしい数の文人墨客の書画類、画帖類が残存していることがわかった。そして、騎鶴楼に六十数冊も残っているうちのこの宿帖「画帖二号」にある広瀬旭莊の墨蹟は安政二年に書かれたものである。「流芳百世 安政乙卯

孟夏 旭莊」と書かれ、続いて、旭莊の書画の次の丁をめくると、万葉仮名で書かれた大隈言道自筆の次の和歌が認められていたのだった。

「梅見乍 安駆可麗処行 山鳥能
尾山長引 月乃瀬乃里 筑藩 言道」

その同じ歌「うめ見つ、あくがれ行ば山鳥の尾山長引月が瀬の里」が『今橋集』に残っている。

また、秋月の斎藤秋圃とともに筑前四大画家のひとりと言われる、石丸春牛(能古博物館蔵「花鳥図」



騎鶴楼「画帖二号」 大隈言道の和歌

など)に関しても、伊藤尾四郎が『筑紫史談』(昭和14・9)の「茶忠伝」の記述で大山家に残る言道門下の人々の歌会における歌稿について、「大山忠平経雄は、安政四年三月二歿。年三七、経雄は雨香と称し、歌を大隈言道に学び、画もたくみであった。画家春牛から指導を受けた。」とあり、その繋がりは大変興

味深く、今後の研究課題である。

以上、亀陽文庫から南冥を中心とした豊かな文芸



亀井南冥像(亀陽文庫能古博物館蔵)

の広がり的一端を、言道を手掛かりとしてささやかではあるが垣間見ることができた。

冥ゆかりの人々の事蹟は枚挙にいとまがないが、言道と南冥をめぐるの人々が時空を超えて文化を紡ぎ繋がっていくのを見るようである。このように、文人たちの文化文芸思想の礎を築いた福岡藩大儒南冥の学恩は、より多くの人々に顕彰され、亀陽文庫能古博物館から更に発掘され、そして新たに発信されることを願ってやまない。

しんとう やすこ(写真左) 大隈言道研究者(九州情報大学非常勤講師)九州大学大学院博士課程終了。論文には、本文中で紹介したもののほか▼野村望東尼「みのとしうまのとし」『向陵集』との関連において『文献探究』44号(九州大学)▼大隈言道『続草径集』『同』46号など。その他大隈言道に関する翻刻・解題等がある。福岡市城南区在住。進藤整形外科デイサービスすずらん施設長。54歳。





福岡市立中央市民センター主催の福岡地域史講座第5回「福岡藩大儒 亀井南冥伝—筑前亀井学の成立—」は3月21日同センターで開かれ、久留米大学文学部の吉田洋一准教授が南冥一門の人間味あふれる人物像、オランダ医学との関わり、広瀬淡窓、高場乱、頭山満につながる儒学思想などを2時間にわたって話した。当館とも因縁浅からぬ吉田さんに講演内容を分かりやすく書いてもらった。
(写真左下は参加者の質問に応じる吉田さん)

福岡藩大儒・亀井南冥伝

久留米大学 吉田洋一

はじめに

日本に儒教が伝わったのは、5世紀頃朝鮮半島經由であるといわれています。その後儒教は「儒学」という学問として、平安時代頃までは中央の貴族が、鎌倉・室町時代になると僧侶なども加わって修学されました。江戸時代に入ると、徳川家康(1543-1616)が儒学の学派の一つである「朱子学」を重用し、林羅山(1583-1657)などを学者として厚遇しました。その結果、江戸時代を通じて地方の殿様やその家臣たちも儒学を勉強するようになりました。

亀井南冥の生涯

「孔孟の教え」は親子や先輩後輩、上司と部下など、社会生活の営む上で必要な人間関係を説く学問として現代でも形を変えながら存続しています。福岡出身の亀井南冥(1743-1814)も、江戸時代にこの福岡地方で儒学を広めた学者の一人です。南冥は寛保3年(1743)父・聴因(古医方派の医者)、母・徳の長男として、筑前国早良郡姪浜村(現福岡市西区姪浜)に生まれました。聴因は現糸島市の農家の子として生まれましたが、医学を志し、姪浜で開業していました。当時の医学はいわゆる中国医学(漢方)が中心で、医学書などの参考書は全て

漢文で書かれていました。したがって、儒学を勉強する人は、漢文で書かれているものは何でも教科書にしています。なので、『論語』などの学問を教えながら診療所を開業したりすることができたのです。父聴因は、南冥を漢文(漢詩)の先生と、医学の先生の所に留学させました。漢文(漢詩)の先生は、肥前蓮池(現佐賀市)の大潮(1676-1768)という僧侶でした。大潮が学んでいた学問は、「儒学」の中でも「古学(徂徠学)」というものでした。これは江戸の学者荻生徂徠(1666-1728)が唱えた学問で、『論語』や『孟子』などの「孔孟の教え」を原典のまま理解しようという学習法でした。南冥は大潮のもとで漢文や漢詩文の手ほどきを受け、次いで大坂で開業していた医者永富独嘯庵(1732-1766)に入門しました。独嘯庵は、まだまだ知られていなかった「オランダ流医学(西洋医学)」にいち早く目を向け、中国医学では当時タブーとされていた解剖を積極的に取り入れようとし、後の杉田玄白による『解体新書』の刊行などに影響を及ぼした人物でした。

南冥は主にこの二人から儒学と医学を学び、帰国後唐人町(現福岡市中央区唐人町)に移り住み、父と共に診療所

を開業、同時に儒学講義所(蜚英館、のち南冥堂)を開きます。宝暦13年(1763)には来福した朝鮮通信使の応接役として漢文の才能を発揮し、周囲を驚かせました。

そしてついに安永7年(1778)、「儒医兼帯」として福岡藩(七代目・黒田治之)に召し抱えられることになったのです。当時市井の町医者が藩に召し抱えられる(武士になる)ことは大変珍しいことでした。南冥在任中の一番大きな功績は、藩校(藩の学問所)をつくる許可を得たことです。天明4年(1784)には、福岡藩に修猷館(館長・竹田定良、朱子学)と甘棠館(館長・亀井南冥、徂徠学)という二つ藩校が同時にできました。藩内に学派の違う藩校が二つ同時につくられることは全国的に稀なことでした。

寛政4年(1792)、南冥は甘棠館の館長を退任させられます。これには、当時幕府が行った統制(寛政異学の禁)が原因であるとか、もう一つの藩校(修猷館との対立や、南冥自身の素行に問題があったなど様々な理由が挙げられています)が、現在のところその真相は分かかっていません。文化11年(1814)、自宅の火災が原因で南冥は没します(享年72歳)。

「亀井学」の教え

南冥の後半生は特に波乱に満ちたものでは、数多くの門人や教えを残しています。門人の代表は長男の昭陽(1773-1836)でしょう。昭陽は南冥退役後に家督を相続し、多数の著作を発表しました。そのおかげで、南冥の教えを現在でも知ることができるといえるでしょう。昭陽は、いふならば「亀井学」というものを継承発展させ

た功労者です。この親子に学んだ人物に廣瀬淡窓(1782-1856)がいます。淡窓は江戸後期の儒学者、教育者です。当時天領であった日田(現大分県)の商家の息子として生まれましたが、家業は弟に譲り、南冥と昭陽に学問を学びました。その後日田に戻り、「咸宜園」という私塾を開きました。門人には高野長英、大村益次郎、清浦奎吾等、数多くを輩出しています。咸宜園は明治半ば頃まで続き、閉塾するまでに4000人以上の門人を世に送り出したといわれています。

その他、南冥・昭陽門人には、日出(現大分県)の学者帆足万里(1778-1852)や日本初の蘭日辞書『ハルマ和解』を著した稲村三伯(1758-1811)、福岡では、藩内で初めて解剖の実見を行った武谷元立(1785-1852) 祐之(1820-94) 親子などがいます。加えて、孫の亀井陽洲の門人には、幕末に興志塾を開いた教育者高場乱(1831-91)やその弟子の頭山満(1855-1944)などがおり、その学問の継承は連綿と続いています。

では簡単に南冥が唱えた学問を説明しましょう。『南冥問答』(『亀井南冥昭陽全集第1巻』所収)の中に次のような一説があります。

凡学問八大抵角カラトルト同ジコトニテ、第一自力ガ入タルコトナリ。自力ハナクテ様々ノ手ヲナラヒ、上手バカリニテ角カラトルハ、大怪我ノ本ナリ。学問者ノ自力ト云ハ自分ノ識量ナリ。識トハ万事ノ見ワタシ出来ルコトナリ。量トハ万事ヲシメククリハカラフコトナリ。此識量ノ自力ナクテハ、何程書ラヨミ理義ヲキ、テモ、用達ハナキモノナリ。

学問修養の心がけを角力(相撲)にたとえて述べています。学問には自分自身の「識量」というものが

大切で、善し悪しを判断しそれを認識する力が必要である。これらを習得せずにくら難しい書物を読んでも役には立たない、と言っています。ただこの「識量」を養うことが難しいのですが、まず「学問ノ自力」という基礎学力をしっかりと身につけた上で、一つの考え方に固執しない柔軟な姿勢を養うことが重要だ、と言います。

是非トモニ此力道理ト云ヒハセヌ兎角ニ途ニヨラヌノ力道(『古今齋以呂波歌』同書所収)

「途ニヨラヌ」とは、儒学の面においては、朱子学や徂徠学といった学派にとられない主張が、南冥の著作である『論語語由』の中に活かされています。また、医学の面においては、解剖に代表される西洋医学を受容しようとする柔軟な姿勢がうかがえます。このことは、後に亀井家から様々な分野の門人たちが輩出されていることでお分かりいただきたいと思います。



よしだ よういち(写真上)
久留米大学文学部准教授

1970年、飯塚市生まれ。久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程満期退学。柳川市史編纂係、佐賀県立佐賀城本丸歴史館勤務の後、2006年、久留米大学文学部専任講師。久留米市文化財蔵審議委員、鳥栖市文化財審議委員など。二時期 能古博物館非常勤学芸員を務めた。専攻は日本近世儒学史、医学史。著作「亀井南冥の医学思想」(『洋学』8(2000年)、所収)、「福岡藩の医学―亀井南冥を中心に―」(『からふね往来』2009年、中国書店、所収)、「中津市歴史民俗資料館史料叢書」(中津市教育委員会、2000年)以下続刊)など。

本年度の新たな運営方針

団体誘致に焦点

本年度は市内の各種グループに呼びかけ、団体誘致に本格的に取り組みたい。博多湾の景観が売りの「海の部屋」は最高で20人程度の句会など。「日野原ホール」(収容50人)は研究発表会、郷土史研究会など。別館2階は個人の美術展などに売り込む。この3月、島に居を構えた檀太郎さんの紹介で有名結社の句会が「海の部屋」で開かれたが、週日の使用にも最大限の便宜を図る。

歩こう会にダイレクトメール

能古公民館に協力をお願いして地元ならではのきめの細かい島内周回家内図を作成。各地の公民館、歩こう会等に送り健康ウォークをPRする。島内の食堂、レストランとタイアップ。昼食を割引料金で用意してもらう。当館はトイレ休憩のペースとして日野原ホール、海の部屋を活用し、入館料を割り引く。将来は島内全域の町内会に呼びかけ、当館と共に催の能古ワンデーマーチ(仮称)を開催する。

バス利用を促進

正門を閉鎖
『能古学校前』下車3分 本館横門へ
永福寺の庫裏新築に伴う道路拡張工事が始まった。当館は危険防止のため正門を閉鎖する。その一方で西鉄バス利用による入館増を図る。

姪浜からの便で船着き場に到着、目の前のバス停からアイランドパーク行きの西鉄バスに乗れば約5分でふた停留所目の『能古学校前』に着く。そこから徒歩下り約3分で能古博物館の横門へ。

高齢者だけでなく歩くことを敬遠しがちな子ども連れにもバス利用はおすすめ。アイランドパークの帰途立ち寄るプランも積極的にPR、同パーク内にチラシを置かせてもらい、船着き場にとんぼ返りする観光客を途中下車でキャッチしたい。

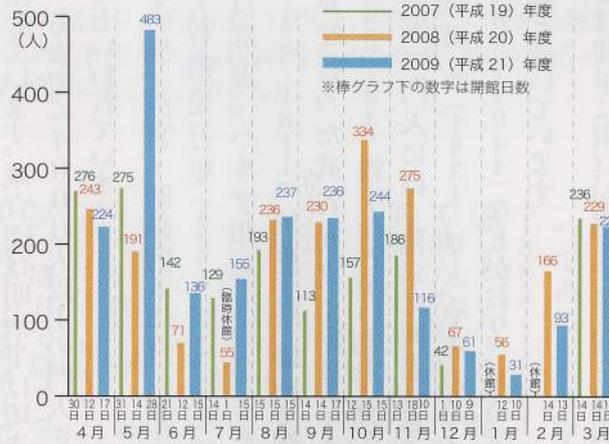
船着場から当館までの徒歩コースは、永福寺境内を通る順路を従来通り推奨する。

冬季休館復活

より効率的な経営めざす

昨年度の入館者数はおかげさまで「昨年度をわずかながら上回った。しかしながら左の表を見ていただくとうわ

最近3年間の入館者数(月別)推移

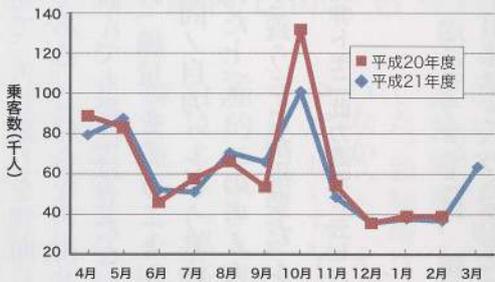


だくとわかるように、12月からは冬の3ヶ月間は落ち込みが激しい。本年度は冬季休館を復活する。休館期間は館内整理、翌年度の諸準備にあてる。

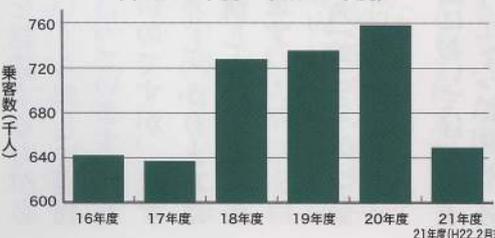
入館者数と渡船乗客数の推移

福岡市客船事務所(姪浜旅客待合所)のご協力で能古島渡船の乗客数データを掲載した。月ごとの博物館の集客数と渡船乗客数はほぼ連動しており、アイランドパークの集客力に助けられ、かつ天候に左右される厳しい現実がみてとれる。(注)昨年5月はフルに開館したため入館者数が突出して多い。

能古島渡船 各月の乗客数 (平成21年度と平成20年度の比較)



能古島渡船 乗客数の移り変わり (平成16年度～平成20年度)



☆「日野原ホール」(旧研修室)と「海の部屋」の利用法 ☆

季節ごとの句会や研修会、サークルの発表会や反省会など、色んな集まりを歓迎します。博多湾の「へそ」と言われる緑豊かな能古島で、のびのびと心ゆくまで、しかも手軽に集まっただけのよう、ふたつの広い部屋をリーズナブルな料金で用意いたしました。お気軽にご相談ください。

■ 設備の内容

・日野原ホール=館内で一番広い部屋。新老人の会の日野原重明会長(98歳)が島内の子どもたちに「命の授業」を行ったのを記念して命名しました。会議用テーブルと折りたたみ椅子を使って50人までの集会ができます。

・海の部屋=館内で一番眺めの良い部屋。目の前の博多湾から対岸のビル群まで見渡せます。ジオラマケースを兼ねた特注の大型テーブルを囲んで14人まで座れます。窓際の椅子を使えば20人位は可能。隣の喫茶コーナーには醸金方式の飲み物を用意しています。

■ ご利用料金

・大人ひとり400円の入館料にプラス100円でどちらかの部屋を4時間まで利用できます。(最低基本料金:2時間使用で4,000円)

・料金・開催曜日、人数、時間、飲み物などのご相談をお受けします。

(電話092-883-2887) (FAX092-883-2881)

カメラスケッチ 世界のフェリー

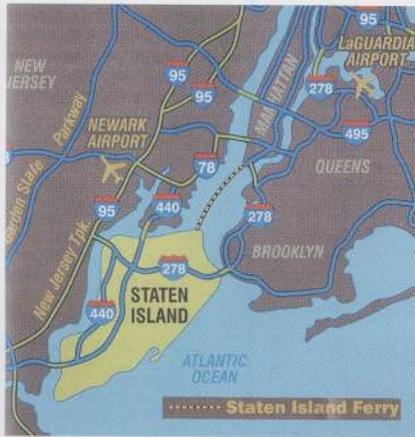
☆ニューヨーク☆

「マンハッタン〜スタテンアイランド航路」 リーマンショックの震源地ニューヨーク市



(NY)の金融街から徒歩で10数分。マンハッタン市営フェリーステーション「ホワイトホール」は、初めて島に渡った10数年前と余り変わっていない。

こそホワイトホールへ(写真①)。島はスタテンアイランドといい、わが能古島とは比較にならない巨大な島である。待合室は天井が高く広い。物乞いの姿もなく安心してベンチに座った。トイレの清掃も合格点。NY市



川の1支流によって内陸と隔てられてしまったニュージャージー州側の土地の一部である。面積151平方キロ、人口は10年前の国勢調査で44万3千人。出典ウィキペディア

【注】スタテンアイランド(黄色の部分)。ニューヨーク市の五つの行政区のひとつ。ニューヨーク湾の入り口に位置し、北はマンハッタンと、東はブルックリンと、西はニュージャージー州と隣接している。地理上は「島」だが、地理学上はハドソン



長の治安回復宣言はウソではなかった。この数日前、ボストン駅の待合室で60歳ぐらいの女性から小銭をせびられ閉口したが、所変われば品変わるである。

24時間営業 料金無料

フェリーでマンハッタンを離れ(写真②)、島に向う。



途中で反航する僚船とすれちがった(写真③)。自由の女神を遠望する(写真④)。約20分間で島の玄関口「セントジョージターミナル」に接岸した。観光案内所に駆け込み案内パンフを入手。まず帰りの船のダイヤを調べた。平日は1日40数往

復、24時間営業。

近場の観光スポットを探す。徒歩の距離に球場があった。マイナーリーグ「スタテンアイランド・ヤンキース」の本拠地。だが季節は1月末、シーズンオフだ。波止場周辺をぶらぶら歩いて過す。島の博物館を見つけたが休館日。ついていない。波止場に隣接してパーク・アンド・ライドの広い駐車場(写真⑤)。対岸にマンハッタンががすむ。帰途の船室はがらがら(写真⑥)。船尾に立って横に長く伸びる島影に見とれた(写真⑦)。

島には有料の市営バスもあって4本の橋(地図参照)で島外と行き来するが、マンハッタン往復に一番便利なのは市営フェリー。なんと無料。外国人観光客にもこのサービスは平等で気分がいい。

またいつか訪ねよう。島ならではの小ぶりのホテルに泊まって片道42分の縦断鉄道に乗ってみよう。年甲斐もなく胸が高鳴った。

(能古博物館N)



